イエスを神の御子と証しするもの

ヨハネ福音書5:30-38
【新改訳2017】

5:30 わたしは、自分からは何も行うことができません。ただ聞いたとおりにさばきます。そして、わたしのさばきは正しいのです。わたしは自分の意志ではなく、わたしを遣わされた方のみこころを求めるからです。
5:31 もしわたし自身について証しをするのがわたしだけなら、わたしの証言は真実ではありません。
5:32 わたしについては、ほかにも証しをする方がおられます。そして、その方がわたしについて証しする証言が真実であることを、わたしは知っています。
5:33 あなたがたはヨハネのところに人を遣わしました。そして彼は真理について証ししました。
5:34 わたしは人からの証しを受けませんが、あなたがたが救われるために、これらのことを言うのです。
5:35 ヨハネは燃えて輝くともしびであり、あなたがたはしばらくの間、その光の中で大いに喜ぼうとしました。
5:36 しかし、わたしにはヨハネの証しよりもすぐれた証しがあります。わたしが成し遂げるようにと父が与えてくださったわざが、すなわち、わたしが行っているわざそのものが、わたしについて、父がわたしを遣わされたことを証ししているのです。
5:37 また、わたしを遣わされた父ご自身が、わたしについて証しをしてくださいました。あなたがたは、まだ一度もその御声を聞いたことも、御姿を見たこともありません。
5:38 また、そのみことばを自分たちのうちにとどめてもいません。父が遣わされた者を信じないからです。

【祈りながら考えよう】

（１）30節の「わたしは、自分からは何も行うことができません」とはどんな意味ですか。
（２）イエスが神の御子であることを証しする「４つのもの」とは何ですか。
（３）父なる神の証しとは具体的に何を指していますか。

【解　説】

（１）父なる神と緊密につながっている御子

《わたしは、自分からは何も行うことができません。ただ聞いたとおりにさばきます。
そして、わたしのさばきは正しいのです。わたしは自分の意志ではなく、
わたしを遣わされた方のみこころを求めるからです》(30節)

「わたしは、自分からは何事も行うことができません」ということばは、一見したところ、何かを行う権限がご自分にないといっているかのように思われる。しかし、そういう意味ではない。

ご自分が父なる神と非常に緊密につながっているため、ご自身が独立して行動することはできない、という意味である。主はご自分だけの権限では何もすることがおできにならなかった。主は御父に完全に従って行動され、御父と常に最大限の交わりと調和を保っておられた。

この節は、偽教師・異端者たちが､イエス・キリストは神ではなかった、という自分の主張を裏づけるためによく使われた。イエスは自分からは何事も行えなかったのだから、単なる人間にすぎない、と彼らは言う。

しかし、この30節は実は、それと正反対のことを証明している。人間は、神の御心に合致していようがいまいが、行うことができる。しかし、主イエスはご自身のご性質のゆえに、そのような行動は取れなかった。それは、物理的にというより霊的な意味で不可能だった。

イエスにはどんなことでもできる力が物理的にはあったが、間違ったことは何一つ行うことができなかった。また、父なる神の御心から外れたことを仮に行ったとしたら、それ自体が間違ったことであったはずである。この言明があるゆえに、主イエスは歴史上の誰とも違うお方であることがわかる。

主イエスは御父の御声に従い、日毎に教示を受け、それに即して考え、教え、そして行動された。ここでいう「さばく」ということばは法的な事柄に裁断を下す、という意味ではなく、ご自身にとってどのような行動やことばが適切なものかを「判断する」、という意味である。

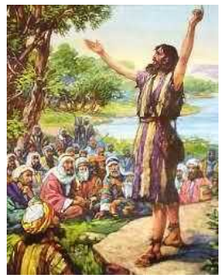
（２）バプテスマのヨハネの証し

《もしわたし自身について証しをするのがわたしだけなら、わたしの証言は真実ではありません》(31節)

ユダヤ人たちはモーセの律法によって、裁判での証言は二人、または三人の証言がなければ、事柄の真理は立証されないと定められていた（申命記19:15)。

イエス･キリストがどんなにご自分が神の子であり、ご自分の権威が父なる神から委ねられていると、ご自分で証言したとしても、それは何かを立証するには不十分だということになる。

そこで、主イエスは４つの証拠を示して、それがイエスの神であることを証ししていると論証された。主イエスがここで示しておられる順序に従ってそれらのものを挙げると、①父なる神、②バプテスマのヨハネ、③主がなさった奇蹟のみわざ、④聖書である。



父なる神の証しを最初に挙げているのは、総括的にそれを述べていることなので、これは一番後にし、主が二番目に取り上げておられることから見ていきたい。

他の３つの証しが現在形で記されているにもかかわらず、バプテスマのヨハネの証しについては、過去形が使われている。

「彼は真理について証ししました」「ヨハネは燃えて輝くともしび」でした。これは、おそらく主イエスがこのことを語っておられた時、すでにヨハネは投獄され、ヘロデ王に殺されていたことを示していると思われる。

しかし、この殉教したヨハネの忠実な証しを、主は決して忘れておられない。主は彼の証しを高く評価しておられる。このことを私たちは深く心に銘記したい。

私たちもバプテスマのヨハネと同様、主を証しする使命が与えられている。ヨハネの忠実な証しは、この世からは何の評価もなく、ついに死をもって報いられたが、主はその忠実な証しをいつまでも評価してくださる。

主がバプテスマのヨハネの証しについて語っておられるのは、たといそれがどんなに忠実な証しであったとしても、主が人間の証しによって、ご自分が神であることを立証しようとしておられるのでないことを、次に明らかにするためである。

主はこう語られました。「わたしは人からの証しを受けません」

それでは、なぜ主はそのことを持ち出されたのか。「あなたがたが救われるために、これらのことを言うのです」

以前バプテスマのヨハネがしていた証しを思い出し、人々が信じるためである。このことから分かるように、私たちの証しによって、それを聞く人が救われるということである。

（３）主が行っている奇蹟

次に主が語られた証しは、「ヨハネの証しよりもすぐれた証し」であって、それは、「わたしが成し遂げるようにと父が与えてくださったわざが、すなわち、わたしが行っているわざそのもの」である。この「わざ」とは、具体的には奇蹟のことである。五千人の人々にパンを食べさせるとか、水の上を歩かれるとか、いやしとか、死人を生き返らせるといった奇蹟である。

聖書の中に出て来る奇蹟を受け入れようとしない人々が今日もいる。未信者はそれを受け入れることができない。キリスト者と称している人々の中にも、受け入れない人がいることは悲しむべきことである。

そういう人々は、聖書を誤りのない神の言葉と信じていない人であり、聖書を本当によく読んでいない人である。主イエスが地上生活をされた当時の人々でも、主に反対する人々は、奇蹟がなされたことを否定していない。

その奇蹟の事実を否定するどころか、その奇蹟の出来事によって、それを見ていた人々の心にそれが与える影響を心配し、悪霊によってそれが行われたなどと言って、ごまかそうとした。

奇蹟について正しい考え方をする必要がある。奇蹟を認めることは、自然法則を破壊することにはならない。

神は「創造のみわざ」によって天地万物をお造りになられた。その後、「摂理のみわざ」によってそれを支配し、導いておられる。「摂理のみわざ」というのは、「創造のみわざ」のように、神の直接的な介入によるのではなく、自然法則などを与えて、それによって被造物を間接的に支配し、保持しておられることである。

奇蹟はやたらに起こるのではなく、救いに関して起こっている。聖書を見ると、特異な奇蹟が集中的に起こった時代が４つあった。

第１は、出エジプトの時で、それは神の民の誕生という重大な時期であった。紅海が２つに分けられ、イスラエル人はその乾いた所を渡れたのに、エジプト人はそこへ入って全滅したことや、マナや水が与えられたことである。

第２は、エリヤやエリシャの時代である。その時代の特筆すべき奇蹟は、バアルの預言者450人を相手にエリヤが祈った時、主は火をもって答えてくださり、祭壇の上に用意した雄牛も、その上に注いだ水もすべてなめ尽くすように焼いてしまわれた。これは、バアル礼拝による本当の神信仰の危機に直面していたからである。

第３は、イスラエルの民の捕囚時代である。ダニエルの三人の友だちが燃える炉の中に投げ込まれたにもかかわらず死ななかったのに、彼らを連れて来た者たちは、みな焼け死んでしまった。これは生きておられる本当の神信仰が、異教の地で危機に直面していた時であった。

第4は、救い主イエス・キリストの地上生活の時代である。今日も奇蹟が起こることを否定しないが、主イエス・キリストの地上生活の時代に、奇蹟があったのは当然のこと。神が人となってこの世に来られたのであるから。

（４）聖書の証し

第３に、主イエスは、「聖書の証し」について言及しておられる。この点については、39節以下に詳しく語られているので、次回学ぶことにしたい。

（５）父なる神の証し

《その方がわたしについて証しする証言が真実であることを、わたしは知っています》(32節)

具体的には、主イエスのなさった「奇蹟のみわざ」である。それは、「わたしが成し遂げるようにと父が与えてくださったわざ」だと主は語られた。また、「旧約聖書の証し」である。それは、「わたしを遣わされた父ご自身が、わたしについて証しをして」いる「みことば」だからである。

キリストの奇蹟のみわざも旧約聖書と共に、父なる神の証しにほかならない。私たちは、キリストのなさった奇蹟と聖書によって、イエス・キリストが神の御子であると信じなければならない。